

新たな借金を重ねるといふサラ金財政の事態を食い止めるべく努力を重ねておるようですが、税収の極端な不振から歳入のめどが立たない現況から、かつてない苦しい予算編成を迫られてゐることは御承知のとおりでございます。

国庫財政に対する依存度の特に高い私たち福生市を取り巻く諸条件は、年々厳しさを増してきております。いまこそ、その対応をどうしたらよいかを、理事者、議会、市民が一体となって考え、行動する時機であると思ひ、今回一般質問をいたしますものでございます。

最初に、地方交付税についてお尋ねいたします。

御承知のように、普通交付税の使用に当たっては、使途に特別の制限は加えられておりません。いわゆる、いつもの財源でなければ、私たちは福生市にとって、これからますます増大するであろう行政需要に対処するために、普通交付税は必要欠くべからざる財源であると思ひます。

この普通交付税の昭和五十七年度分が決定され、総額では、市町村分、三兆八千億円余りで、昨年度比四・六％のアップでございましたが、

残念ながら、東京都の市町村全体では、昨年に比べて二・五％減、金額にして三十一億円余りの減額で、私たち福生市も例外でなく、八・五％減の約一億円が昨年に比べて減額となりましたことは御承知のとおりでございます。厳しいあらわれの一つであります。そこで、お尋ねいたします。

普通交付税、昨年に比べて約一億円の減額の根拠は、どういふところにあるのか。一億円の減額による市民生活への影響は、どうなのか。今後の見通しはどうか。対策はどうするのか。これが第一点でございます。

次に、防衛施設周辺の生活環境整備等に関する法律についてお尋ねいたします。

この法律に基づく補助金の獲得に当たっては、理事者はもちろん、議会においても並み並みならぬ努力を重ねて今日に至つておるわけであります。特に近年、いもつきの建設事業ばかりでなく、維持管理のための費用をもと、議会も理事者も一体となって運動を展開しておるわけでございますが、現況は、いもつきの厳しきと言わざるを得ないところでございます。政治力によつて、余り防衛とは関係ないと思われる市町村まで、この法律の恩恵に浴

し、予算獲得のために仲間入りされて来ているために、大変薄められてき、
ているところでございます。

民主主義を守るというとして、安保条約のもとに米軍に基地として土地を
提供している私たち福生市が、ますます予算獲得が困難になつてもよ、
ものでありましようか。周辺整備法に対する取り組み方を変える必要
があるのではないかと思います。理事者はどのように考えておられるのか
答弁を求めるものでございます。

次に、都市環境の整備について質問いたします。

最初に、将来の道路についてお尋ねいたします。

市街地の混雑しそうな道路は、現在、一方通行というきわめて不便な
制度の導入により、車の乗り入れの制限をしておりますが、本来、生活
道路は一方通行にすべき性格のものではないかと私は考えております。生
活道路は安心して歩行ができる歩道を兼ね備えてこそ本来の道であ
ります。防災上の観点からも、市街地の狭い道路は危険であります。
十年前、二十年前と比べると、比較にならないほどの車がふえております。

私たちが生活する上で、今後ますます車はふえ続けると予想されます。

生活道路であり幹線道路である、たとえば銀座通り。今から十年先
も二十年先も、今と全く同じでよいのでありましようか。西口再開発にも終
めまして、何らかの方策を打ち出さなくてはならない時機に来てると考えるので
すが、また電線等の地下埋設についての考え方について答弁を求めるもの
でございます。

次に、公園などの公共施設の適正配置についてお尋ねいたします。

御承知のように、一人当りの公園保有面積では、私たち福生市は非
常に高い水準にあります。しかし、適正に配置されているかという点に
ないます。残念ながら昔から、村の時代から住んでおられる人々の近くには
必ずと言ってよいほど公園が見当たりません。実施計画の中でも、今後、
公園等の公共施設の適正配置に努め整備拡充を図り、機能的な都市
環境をつくるべく努力するとしてありますが、公園等の適正配置
について今後どのように進めていくのか、答弁を求めるものでございます。
以上です。

(市長 田村匡雄君登壇)

○市長(田村匡雄君) 森田議員さんの御質問にお答えいたします。

第一点の財政問題からでございます。地方交付税について御答弁いたします。

五十七年度の普通交付税は、たゞいま御指摘のように、約十億八千万円で、前年度に比べて率にして八・五%であり一億円の減額でございます。この減額は、当市の財政状況からして相当の痛手でございます。しかしながら、幸いにして五十七年度一般会計予算においては、五十六年度の繰越金を初め、税收等の伸びにより、これをカバーすることかでき、当面、予算上での収支のバランスが保てる状況でございます。

次に、減額の主たる原因でございますが、交付税の精算の過程から確たる数値を把握することは困難であります。五十七年度の地方財政計画が、歳出面にあって抑制的である反面、歳入面にあって市民税等の高い伸びを見込んで策定されたことによるものとされております。参考ですが、交付額は全国的傾向として都道府県の伸びが高く、市町

村の伸びが低いというようになっており、東京都とか大阪府のよりな経済水準の高い地域の市町村の伸びは、逆にマイナスという結果になっております。次に、今後の交付税の見込みであります。五十八年度地方交付税は、国税三税の伸び率も関係いたしますが、国家予算の要求の段階で、ことしに比べて約一四%の減というマイナス要求であり、本年度実績を維持するのが容易なものと認めます。

また、以前は交付率の三三%を引き上げる運動をしてまいりましたが、かかる財政状況では、その多くを期待することは困難かと思っております。そこで、普通交付税と言わず、財政運営全体の中で基地における間接、直接の影響を検討してまいりたいと思っております。

次に、第二点目でございます。防衛施設周辺の生活環境整備等に関する法律の取り組み方について。

御承知のとおり、昭和四十九年に防衛施設周辺生活環境整備等に関する法律が制定され、本市もこの法律によってさまざまな施設を整備してまいりましたが、御指摘のように、この法律は建設的な面の

補助対象に比較的整っているものの、非施設的な面の補助対象範囲がきわめて狭く、学校の防音事業、関連維持費を除くとほとんど皆無に等しい状態であります。基地周辺市町村が、等しくその整備を要望しているところであります。

本市にあつても、毎年市議会の基地対策特別委員会の陳情を初め、機会あるごとに私も関係官庁へ強く要望している次第であります。また、基地周辺市町村で組織している全国基地協議会や防衛施設周辺整備全国協議会等でも、毎年、国の機関に対し、民政安定事業の助成として補助対象範囲の拡大や補助率、補助額の引上げなどの要望運動を展開しているところであります。

ところが御承知のとおり、わが国の本年度の国家予算を見ましても前年度の伸び率がゼロシーリングと、きわめて厳しい状況にあるわけで新規なものはもちろんのこと、既設のものにありましても現状維持がせいぜい、従来には、厳しいところにおかれていた状態であります。

しかしながら、基地周辺市町村の抱えている多様な実態等と、さらに

十分、国の機関等に訴え、今後も根気よく全国基地協議会や防衛施設周辺整備全国協議会等を通じ、より一層積極的にこの運動を進め、制度の改善を要望してまいりたいと考えております。

なお、市議会におかれましても、今後一層の御指導をお願いしたいと思つます。

都市環境整備についてお答えいたします。御承知のように、わが国の都市は近代的な都市整備の歴史が浅く、いわゆる社会資本ストックが少なく、土地利用計画が不十分のまま、狭い可住地における土地利用が競合したこと、都市化の速度が速かったこと等により、さまざまな問題が発生し、森田議員さんの御指摘のように、こうした都市化現象、あるは自動車の増加を考えますと、将来の都市づくりの理念と、それにふさわしい総合的な都市整備の施策を検討し、将来に備える必要があると思つます。

御質問の将来の道路行政についてでございますが、日本の道路も、第一次道路整備五ヶ年計画に、昭和二十九年着手以来、高速道路、国道、主要地方道等の整備が急速に進められましたが、しかしながら、自

動車事故、あるいは自動車渋滞状態等を考えますと、本格的な道路整備は、これからではないかと思えます。

さて、当市の整備状況でありますが、市単独事業、国・都補助事業、区画整理事業等により整備を進めてまいりました。御指摘の主要幹線道路でありますが、区画整理事業で整備した路線、並びに都市計画路線として指定した路線を除く路線は、幅員が六メートルから八メートルと狭く、歩車道の区別もなく、交通安全、災害等の避難等を考えますと、種々問題が多い道路と思えます。

前段で、道路の本格的整備は、これからではないかと申し上げましたように、当市の道路整備も、これから再整備の時期であると思えます。しかし、市街化が進み、小住宅化、地価の高騰等、難問題が山積している状況での路線整備、いわゆる買収方式となりますと、土地の所有者、あるいは権利者の協力を得ることは非常に困難と思われれます。

したがって、理想では区画整理事業、市街地再開発事業により一定の区域の開発と合わせ道路の整備を考えるわけですが、これも大変

むずかしい点でもあります。今後、都市施設の整備に対する市民の意識調査等、種々調査・研究を行い、道路整備の手法を研究し、積極的に取り組んでいきたいと思います。

次に、電線等の地下埋設についての御質問でございますが、今後とも共同溝等とよく研究し、道路整備と同様、土地区画整理事業、あるいは再開発事業等の手法により道路の有効利用、魅力ある道路景観の創造のために努力していく所存でございます。

次に、公園等の公共施設適正配置についての御質問ですが、御案内のとおり、当市の公園、児童遊園は、合わせて三十五カ所、面積約二千七百三十平方メートルであり、市民一人当たり四平方メートル強で都市公園法の標準を上回っております。しかしながら、御指摘をいただきましたように、配置の上では適正とは言いかなく、特に中央本町地区のような市街地等には公園がないという問題がございます。

そこで公園等につきましては、昭和五十五年度に策定いたしました「緑のマスタープラン」に沿って、特に児童遊園、公園化などを整備目標にいたしま

して、そのような箇所から整備をいたすべく実施計画に盛り込み、取り組んでいきたいと思ひます。問題は、家のすき張りつてしまった市街地ですから、用地の確保が非常に困難でございます。しかし、防災上、避難所としてのこれからの整備に積極的に取り組んでまいりたいと思ひます。でございますれば、このようなことから本来、都市再開発事業を実施すれば、公共空間の確保が可能となり、御指摘の適正な配置につなぐと考えるわけでございます。福生駅西口周辺のまちづくりは、この意味から手始めでございますので、議会を初め、地元関係者の皆様のコセンサスによって、ぜひとも実施をしてまいりたいと思ひております。

答弁とさせていただきます。

○七番（森田治男君） 自席から再質問をさせていただきます。

最初の地方交付税でございますけれども、一億円、今年度減額をされ本議会でこれから審議をするわけですが、根拠については数字的なこともあつて把握は困難であるというふうな回答ではなかつたかと思ひます。また、一億円の減額によって市民生活への影響は、当初予算で財政

計画よりも少し下回った予算の計上のために、幸か不幸かそれほどの影響はないであろうというふうな答弁だったというふうに理解するんですけれども、考えてみますれば、この一億円がもし来れば基金というふうな形で残るんではないかというふうにも考えられるんですけれども、いづれにしても、把握は困難であると。根拠を見出すことは非常にむづかしいというふうなことでございますけれども、先ほど市長の答弁にもございましたように、国の交付税が来年度一三・六％減の予想です。七兆九千七百五十四億円の総額だと思ひます。前年に比べて一兆二千五百五十五億円の減少という数字が出ておると思ひます。当然、各市町村にもしわ寄せが、特に来年度以降、来ると予想されるわけでございます。

ほかの市町村と同じような運動をしていたのでは、減額されることは目に見えてくるわけでございまして、何とか検討をして、私たち福生市の特殊性を訴えながら、福生にとって、私たちの市にとって有利な方向へと持っていくかなければ、ますます苦しくなってくるわけでございます。特に国庫財政に依存している私たちでございますので、そのような観点から、この普通交付税に

つきました。私たちの横田基地所在地という立場から、米軍基地を抱えて
行政事情があるという観点から、普通交付税につきました。いさ少し
詳しく、具体的に質問をいたします。

普通交付税の算出に当たりましたは、いろいろな態容補正と言いま
すが、あるわけですけれども、五十一年の十二月に、私はこの問題を取り上げま
して、一般質問という形で、当時の石川市長にも「どうだろう」ということ
で考え方を申し上げてあり、また申し上げるのは大変恐縮でございます
けれども質問をさせていたいたします。

まず、基準財政需要額が上がれば、必然的に普通交付税というのは上
がってくるというふうになっておるわけです。私たち福生市が、現在、基地が
あるためにいろんな補助金を獲得しているわけですけれども、これでは満足し
ないというのが五万市民ではなからうかと思えます。特に財政を抱えている
担当の方も、このくらいのことではしうがな、というふうに思っておると思
うですけれども、そんな中から、当然、需要額を上げるべく、普通交付
税をたくさんいただけるような算段をすべきではなからうかという観点に

立つわけです。そこで、種地が上がった場合、現在私どもは乙の八ですか、ワン
ランク種地を上げていただくような運動をしまして、種地が一つ上がったら、どのく
らいの交付税が来るのかということ。これが具体的な質問の一つです。

それから、交付税の算出に当たっては、先ほど申し上げましたように、いろい
ろな補正係数というんですか、掛け合せてやるわけですけれども、私どもの所
では全く関係のない寒冷地補正というよりなこと、いろんな補正係数がある
わけなんですけれども、基地があるために、要するに基地からの距離というよ
うなものも考えに入れて、基地補正というよりなもの、係数に加えていただ
いて、やはり私どもが有利な方向に持っていくような考え方を五十一年に指摘
してあるんですけれども、どんなふうに考えておられるのか、いま一度答弁をいた
だきたいというふうに思います。

それから参考までに、二十三区並みの二十三区は甲の十ですか、たとえば
二十三区並みの甲の十で算出したならば、わが市は一体どのぐらい交付税が
来るのか参考までにお聞きしたいと思えます。

それから、五十七年度の普通交付税についてお尋ねを申し上げたわけで

すけれども、特別交付税につきまして、やはり今年度——これは今年度ですけれども——しわ寄せが来るんじゃないか、というふうな懸念を持っておるんですけれども、そこら辺についての考え方をお願いいたします。

それから、周辺整備法でございますけれども、登壇しまして申し上げましたように、基地対策委員会でも真剣に取り上げまして、いろいろな陳情を重ねておるわけですが、国へ参りまして、どうも考え方が、もうこのくらいでいいんじゃないかと、「福生はいんじゃないか」というような考え方が、ひとつにあるやに私は見受けるんです。それと同時に、防衛予算が、先ほど市長から答弁いただきましたように、全体的にゼロシーリングで大変困難であるというふうな答弁でございますけれども、全くそのとおりで、特に生活環境と言いますか、私どもの基地がある所の、要するにソフトな面、ソフトと言いますか、民政安定の面については、非常に大変なマイナスになっておるわけです。ハードな面、いわゆる、これも大事なことでございますけれども、ジェット機を買ったり、いろんな戦車とか、戦車と言いますか、ハードな面に対する予算は、どうもかなり強かに国家予算をつけておるようですけれども、どうも私どもの生活

環境と言いますか、その辺に対する国の考え方がどうもいまひとつであるというふうなところから、私はやはり今までであり、この全国の関係については、全国の市長会、あるいは議長会でももちろんやっておりますけれども、進めるべきであると思えます。

しかしながら、歩調はそこまで、あくまでも私たちが福生市は横田基地という防衛の、自衛隊とは違う外国が来るといふところによって独自の運動を、さらに積極的に行うべきであるというのが私の考え方なんですけれども、今まで私たちの取り組み方としては、防衛施設庁へ積極的な働きかけをしてきたわけですが、これからは外務省、あるいはまた環境庁、ここらへもひとつ同じようなお願い、いろいろ陳情をして、それから防衛施設庁の方へも働きかけをしていただくというふうな取り組み方を、ひとつ変えてみたらどうか。変えるというよりも、少し押すボタンのベルを余分に持った方がいいんじゃないかというふうに考えておるんですけれども、そこら辺の考え方ににつきまして市長に、もう一度答弁をいただきたいと思います。

それから、聞くところによりますと、岩国の基地の移転というところで、

調査費、六十億円ぐらゐの経費がかかるんじゃないかというよりな、うわやでしか私もまだわかりませんけれども、五十八年度に概算要求を調査費だけつけるといううわやも私は聞いております。あるいはまた、千歳において退避壕をつくり、その退避壕を普段は駐車場にするんだというよりな、これまたうわやですけれども、こゝろ辺も五十八年度の概算要求の中に、調査費として組み入れるんだというよりな考え方と言いますか、国の姿勢が、どうも打ち出されているんじゃないかと思ひますけれども、どの程度まで理事者の方はこゝろ辺つかんでおられるか、これも再質問いたします。都市環境の方ですけれども、道路の件、私も市街地に住んでおりました、正直なところ、電線がかなり高くそびえ立っておりますし、しかも電気需要が激しいために、昔と違って大変大きなまが、ほとんどの電柱に備えられておいて、これは地震のとき、大丈夫のようになっておるだろうと思ひんですけれども、見るに似て恐い思いをしながら毎日生活をしていきます。ぜひ、先ほどもお話ししたけれども、地下に埋設するような、区画整理のときでも結構でございますから、前向きにひとつ検討をしていただきたいと思います。いろいろに

要望をいたしておきます。

それから、将来の道路ということで、例を銀座通りにとつたわけですが、これからは私も福生市も、ますます人口がふえて、基本計画にもおこさなければならぬ六万五千、あるいは秋川がまた十万以上、羽村も十万以上、周辺で三十万になるのは、もう目に見えておるわけです。そのようなときには、やはりこゝで西口再開発の、いろいろと論議があるところでおこさなければならぬ、やはり、スハースに買物に来られるような、スハースにみんなが生活できるような、車の流れがよくなるような、基本的に考える必要が来ているんじゃないかというふうに考えておるわけです。幹線道路を都市計画道路として認定させる研究をする時期がそろそろ来ているんじゃないかと思ひんですけれども、こゝろ辺について具体的に考え方をひとつ一度お示しただきたいと思ひます。

それから最後の、公園などの適正配置ということでおこさなければならぬ、大変都市化されておいて用地取得が困難である、これはよくわかります。これは、前にも私は指摘をしておいたと思ひんですけれども、駐車場の件

で一般質問にしまして、玄川には市営の駐車場があるじゃないかと。それから青梅にも市営の駐車場があるわけです。どうして福生に市営の駐車場をつくれないうんた、というふうな質問を申し上げましたら、「適当な用地がない」という答弁が返って来て、私なりの考えを申し上げます。くどくどしくなるんですけども、私はやはり、これは公園にしる駐車場にしる、姿勢にあると思います。と言いますのは、私の近所で、大きなマンションも建つくらい、要するにやる気になれば土地が取得できるわけです。ですから、その辺の、今後、西口再開発とも絡めて、再開発すればその地域はよしですけれども、その近辺ですね、特に近辺、やはりそういう姿勢があれば私は、用地獲得はそれほど困難でなくできるのではないかと、いふふうに考えておるんですけれども、その基本的な考え方、これ、市長からひとつお答えをいたします、と思います。以上です。

○議長（末次性男君）　それより十二時十分まで休憩をいたします。

午前 十時 五十七分　休憩

午前 十一時 十二分　開議

○議長（末次性男君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

引き、続き、一般質問を行います。

○市長（田村匡雄君）　自席から林田議員さんの御質問に対してお答えいたします。

最初の交付税の関係の、特に基地の関係で、「基地補正」というような関係のことでしょうか、というふうなお話がありました。確かに寒冷地とか、いろいろな関係で、雪の害とか、そういうことで特別に、自治省あたりではそういう制度がございますが、この基地補正につきましてはいろいろとございますので、基地交等については、いろいろな意味の迷惑、そういうものがかかっている、大きな基地をかかえている、関係の何市かともよく御相談申し上げます。まして、これからのことについて、全力を挙げて対処していきたい、というふうに考えております。

それから、そういうことを踏まえて、外務省とかある、は環境庁とか、基地があるので、いろいろと特殊な公害があるのではないかと考えている……。